

- B. 「肖像権及び怪我等に関する同意書」：「競技ルーティン」を行う選手は、競技会開催前に「肖像権及び怪我等に関する同意書」にサインし、提出しなければならない。JAF、競技会主催者及びその関係者は、競技会開催中に発生するいかなる突発事故・怪我等について一切責任を持たない。JAF、競技会主催者及びその関係者は、選手の演技及び競技会開催期間中の様子などを撮影・記録したものを使用する権利を持つ。

1.6 薬物使用に対する制裁

- A. JAF は、ドーピング行為（禁止薬物等の使用）を禁止する。これらに関与した者は JAF の定める制裁を負う。（IOC List of Doping Classes and Methods を参照）
- B. JAF は、全ての競技会において、無差別に選択した選手についてドーピング検査を行う権利を持ち、選手はこれに従わなければならない。

1.7 抗議

- 採点及び結果に関する抗議は一切認められない。（緊急事態については、第 7 章：緊急事態を参照）

第 2 章 「競技ルーティン」実施に関する一般規則

2.1 競技エリア

競技エリアは、原則として以下の大きさとし、5cm の幅のテープではっきりと線引きされていること。ただし、テープの幅も競技エリアに含まれることとする。

- ・ 7m x 7m：「一般」シングル部門、「ユース」シングル・トリオ部門
- ・ 10m x 10m：「一般」ペア・トリオ・グループ部門、「ユース」グループ部門

2.2 演技時間／使用曲

演技時間の計測は、最初に聞こえた音から、最後に聞こえた音までとする（キュー音は含まない）。

A. 演技時間

- a. 「一般」シングル部門、「ユース」AG2 シングル部門、AG1 全部門：
1 分 30 秒±5 秒（1 分 25 秒 00～1 分 35 秒 00）
- b. 「一般」ペア・トリオ・グループ部門、「ユース」AG2 トリオ・グループ部門：
1 分 45 秒±5 秒（1 分 40 秒 00～1 分 50 秒 00）
- c. 「ユース」U-10 全部門：1 分 15 秒±5 秒（1 分 10 秒 00～1 分 20 秒 00）

- B. 1 曲またはそれ以上の素材を用いてのミックスも可。オリジナル曲や効果音も可。ただし、一企業や団体・組織を容易に連想させるような曲は使用しないこと。
- C. 使用曲は、CD 又は MD で提出すること（カセットテープは不可）。素材には使用する曲 1 曲のみを録音すること。主催者は、録音状態・内容の確認は行わないため、選手の希望する曲がかからなかった場合でも、再演は不可とする。
- D. 選手は、提出した素材と異なる素材で使用曲が録音された音源を少なくとも 1 枚用意し、緊急事態に備えること。
- E. 選手は、大会前に「曲名」「アーティスト名」「レコード会社名」等、所定の項目を明記した「音楽著作権に関する同意書」の提出を求められることがある。

第6章 禁止動作と規律違反

6.1. 禁止動作

1. 全てのサマーソルト（前方、後方、側方へのとんぼ返り・宙返り）
2. 両手でのサポートで垂直線になる動作（倒立、フリック・フラック又は前・後転跳び【バック転】、側転、等）
3. 自然な姿勢に完全に反する全ての動作の使用（ブリッジ、バック・アーチ、トロー・ヒンジ、プラウ等）
4. サーカスやアクロバットの動作
5. プロペリング（放り投げ動作）
プロペリングとはパートナーによって放り投げられた場合、又はパートナーの力によりエアーボーン・ポジションへ放り出されるような動作を意味する。エアーボーンとは、人間が床にもパートナーにも接触していない空中での位置を意味する。

6.2. 規律違反

A. 警告

下記に従って警告が言い渡される：

- 禁止エリアへの侵入
- ステージ上での不適當な態度
- 審判員や役員に対する不謹慎な態度
- スポーツマンとしてふさわしくない行為

選手が警告を受けられるのは1回のみで、2度目に警告を受けた時点で直ちに失格となる。

B. 失格

下記の場合失格となる：

- JAF 規程、選手登録規程に対する重大な違反を犯した場合
- ウォーク・オーバーになった場合

第7章 緊急事態

緊急事態とは下記のことを言う：

- 主催者側の過失により間違った曲がかかった場合
- 音響設備の問題（選手が第2章、2.2.Cに違反したことによる問題は除く）
- ライトやステージ等、会場設備によって生じた不備
- 選手以外による人や方法によって、競技エリアに異物が投げ入れられた場合
- 選手の過失によるものでないウォーク・オーバーが発生した場合

上記のような緊急事態が発生した場合、選手は直ちに演技を中止する義務がある。演技終了後の抗議は認められない。

主任審判員の決定により問題が解決した後、選手は、再度演技をやり直すことができる。該当する演技のそれまでの得点は破棄される。

上記以外の状況が発生した場合は、主任審判員と競技会主催者が検討し、解決する。この判断をもって最終とする。